

鹿の食害にあった赤城山の水芭蕉

マスコミでも色々取り上げられていますが、全国で鹿が増えて農作物や森林、高山植物などの食害が報道されています。

写真は赤城山の覚満淵そばの水芭蕉で食害のために矮小化して「エッこれが水芭蕉？」と思えるような姿です。

ただこの辺りには元来水芭蕉は自生しておらず、観光目的で移植した物らしく「無くなってもいい」との意見もあるようです。

「流行」とも言えるブナの植林やメダカの飼育放流なども元来その場所に生育していた種を選ばないと一種の「外来種」を増やしてしまう事にもなりかねず難しいところです。



広報委員会 田中和夫

群馬県環境アドバイザーの動き (平成 26 年 6 月 20 日現在)

前年度(第8期)の県環境アドバイザーは327名の登録をして頂いておりました。第9期(登録期間:平成24年4月1日~平成27年3月31日)への更新登録者は203名でした、今期の新規登録者を含め平成26年6月6日現在283名です。前期同様、各地で活躍されています



サポセンブログを携帯、スマートフォンで見よう。
左のQRコードを読み込んでね、スマートフォンの設定でグリーンニュースが見られます。

表紙画像 田中 和夫氏より

P2 温暖化対策室長より

P3 須永代表より

P3 温暖化・エネルギー部会

P4 ごみ、自然環境部会

P5 みどり・桐生地区からの投稿

P6 片亀 光氏より

P7 片亀 光氏より

P8 私の一言(夏の節電、省エネ)





温暖化対策は喫緊の課題です

群馬県環境森林部環境政策課
温暖化対策室長 中田 富久

群馬県環境アドバイザーのみなさん、こんにちは。みなさんには、いつも身近な生活環境の保全から、地球温暖化対策まで、幅広い活動をいただいております、ご尽力に厚くお礼申し上げます。

さて、私はこの4月に、小笠原室長からバトンを受けて群馬県の温暖化対策を担当することになりました。温暖化という課題に対応するためには、地球規模での対策が必要となりますが、まずは地域ぐるみの対応が重要と考えており、みなさんの協力なしには成り立ちません。今後とも、どうぞよろしくお願ひします。

さて、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の第5次評価書が第1作業部会（気候変動の自然科学的根拠の評価）、第2作業部会（気候変動の影響、気候変動への適応、社会経済等の脆弱性の評価）、第3作業部会（気候変動の緩和対策への評価）と出揃い、今年の秋にコペンハーゲンで行われるIPCC総会において統合報告書が承認・公表されることとなっています。（ここにいる気候変動とは、人為起源の温室効果ガスに起因する気候変動のことを指していますので、拙稿でも温暖化に起因する気候変動という意味で記載しています。）

このうち、第1作業部会は前述のとおり、気候システムおよび気候変動の自然科学的根拠についての評価を行うチームです。その報告書の中で、「気候システムの温暖化については疑う余地がない。1880年から2012年において、世界平均地上気温は0.85[0.65～1.06]°C上昇しており、最近30年の各10年間の気温は、1850年以降のどの10年より高温である。」「1971～2010年において、海洋の上部（0～700m）で水温が上昇していることはほぼ確実である。」「1992～2005年において、3000m以上の海洋深層で水温が上昇している可能性が高い。」という事実が確認されました。

また、先日アメリカ海洋大気局（NOAA）の研究チームが、「過去約30年に世界各地で発生した熱帯低気圧の暴風域が、北半球では北寄りに、南半球では南寄りに、それぞれ10年間に50～60kmのペースで移動している。」との研究成果が科学誌ネイチャーに公表されました。

昨年は、台風30号がフィリピンを直撃し、壊滅的な被害を与えたことは記憶に新しいところですが、これらを踏まえると、今後日本を襲来する台風の勢力は、より強いまま接近してくることが予想されます。これによって、日本における台風被害が増加する恐れがありますので、台風に対する新たな備えが必要になってくるかもしれません。

また、今年の2月は、文字どおり記録的な大雪に見舞われ、各地に大きな被害をもたらしましたが、この異常気象（極端気象という言い方もありますが）も、温暖化の影響により、上空のジェット気流の流れに変動を与えた結果、豪雪になったとの意見もあります。海面水温の上昇に伴って、水蒸気量が増加し、それが日本に流れ込んだ結果、大雪になったとの見解もあります。

いずれにしても、温暖化対策は待ったなしの状況にあると思われませんが、行政や企業が温暖化対策に取り組むのは当然のことながら、個人一人ひとりも一緒に取り組んでいくことが、重要だと考えていますので、引き続きみなさまのご協力をお願い申し上げます。

新年度の活動に当たって

代表 須永 徹

2月の大雪が、ついこの間のようにも思えますが、桜も散り新緑も徐々に色濃くなってまいりました。

新しい年度に入り群馬県環境アドバイザーの皆様も、それぞれの得意とする分野での活動を進められていることと存じます。

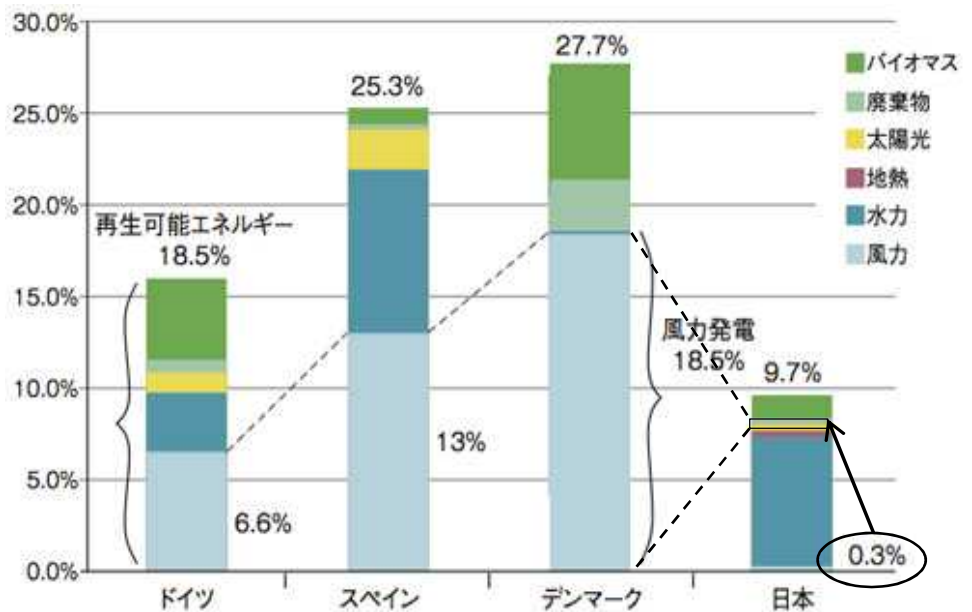
地球温暖化は待ったなしに進んでいます。これをくいとどめ、更なる温暖化を防止するための有効な手段は見つかっていない状況です。今まで事業や交通関係でのCO2排出ばかりが議論されて来ましたが、今や家庭からの排出が馬鹿に出来ないほど増加しています。われわれ環境アドバイザーとしては、ごみ問題や自然環境、エネルギーなどの部会活動が、最終的にはこの温暖化の進捗を防止していくことにつながっていかねばなりません。

どうか、今まで得た知見や新しい知識を活動の中に生かし、地球温暖化防止へと更に繋がる活動として成果を生んでいきたいと思えます。

本年度も宜しくお願い致します。

温暖化・エネルギー部会だより

右の図を見てください。
再生可能エネルギーの内訳です。
ここから考えられるのは・・・
「次は風力発電」ですよね～。
日本の地形を考えれば水力も有効だし、火山大国日本という事を逆手に取れば地熱・地中熱発電も有効ですよ。バイオマスだって十分資源はあるし、全てにおいて技術は開発されているし。



出所：資源エネルギー庁、IEA Energy Balance 2011よりエネルギー経済研究所作成

政策的なバックアップは必要にしても、後はやる気と本気度！ですかね。
事実として以前、日本は風力発電の部門でも世界のトップランナーだったそうですよ。
今の日本は「再生可能エネルギー」では周回遅れと言われていますが・・・。

(温暖化・エネルギー部会長 田口 勇夫)

ごみ部会だより

持続可能な「循環型社会」ということ

2000年に成立した「循環型社会形成推進基本法」では、「循環型社会」は次のように定義されている。廃棄物の発生が抑制されることを前提として、製品の再使用、再生利用、熱回収が行われることを促進し、残りは適正な処分が確保される。そのことにより天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会を「循環型社会」と言う。環境への負荷の少ない健全な経済の発展を図りながら、持続的に発展することができる社会でもある。

3Rの2番目はリユース（再使用）だ。大量生産、大量消費、大量廃棄の使い捨てではなく、良いものを修理しながら大事に長く使うライフスタイルが国民の責務とされている。「売れる」か「売れない」かに関わらず、不要になっても捨てずに知人などに使い回す。フリーマーケット、リサイクルショップ、ネットオークションなどを通じて販売あるいは購入して再使用を促進する。家具、家電などの耐久消費財から本、衣類、日用雑貨などが中心的な製品である。ビール瓶などのリターナブル容器の利用やリユース食器のレンタルを活用することもリユース（再使用）になる。

パソコンのプリンターなど修理代が高く、新品を買った方が安い場合もあって悩ましいところではある。単に価格の比較だけではなく、「循環型社会形成推進基本法」の精神に従うならば、環境への負荷が低い方を選択するべきということになる。

（ごみ部会長 山田一朗）

ごみ部会では新規参加者を募集しています

ごみ部会の山田あてご連絡下さい

itirouyjp@yahoo.co.jp 090-4120-6508

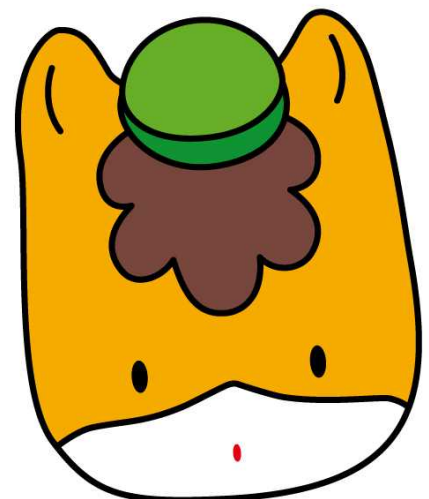
自然環境部会だより

「ぐんまちゃんのこども環境白書」について

次代を担うこどもたちへの環境学習の教材として、また環境白書の普及啓発資料として「ぐんまちゃんのこども環境白書」を環境政策課でホームページに掲載し、今年度版から印刷用PDF版がアップされました。内容的にも対象年齢を5年生向けと理解されやすくできており役立つと思いますので至急アクセスしてみてください。

URLはこちらです。<http://www.ecogunma.jp/?p=37>

（自然環境部会長 宮崎亮二）



トピック

アースデイとそれに関して思う事

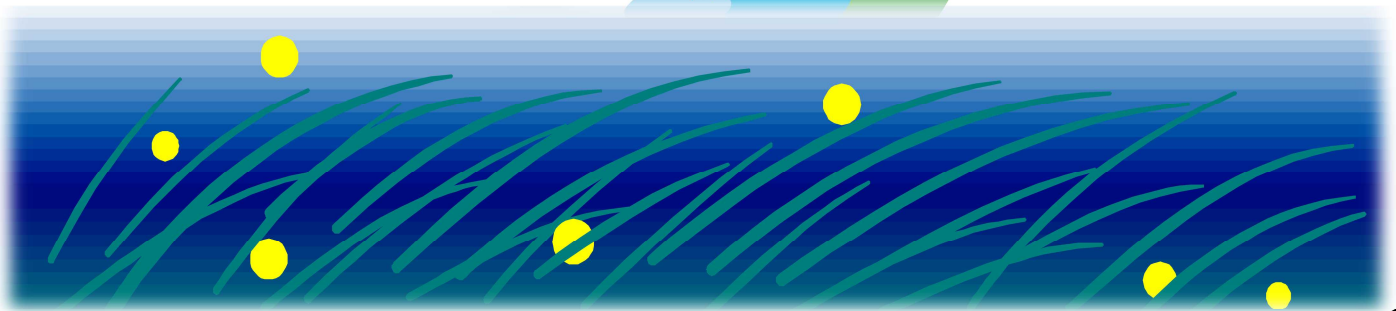
当地区（桐生・みどり）は県の東部に位置し、一級河川渡良瀬川の左岸と右岸に展開されている扇状地を中心に、古来より畑作と養蚕等を生活の糧として営んできた地区です。その為両市は比較的結びつきが強く、我々アドバイザーも第三木曜日の夜桐生市の相生公民館において定例会を開催し（桐生 10 名、みどり 12 名）情報交換や共同作業を続けています。その一環として群馬大学工学部の桜見学会と同一日に昨年まで「アースデイ in 桐生」に参加してきた所です。

本年よりアースデイとしての意味をより強調し、世界アースデイに足並みをそろえるべく、去る4月20日に開催されたイベントに参加致しました。来場者5千人弱、両市の人口からすると少ないですが年々増加しています。会場で当地区はカッコソウ（地球上で鳴神山系だけに生育する花）の花ビラを型にした会員手造りのクッキーや九輪草の及び田口菜の花等の無料配布を行いました。

例年アースデイや日々の生活を通じてつくづく思う事が一つ有ります、みなさんの地区でも同様な事があると思いますが、冒頭にも触れた渡良瀬川（旧名黒川）の支流に小平川という一級河川があり、私が小学校から中学校の頃、この川下はホタル、かじか、うぐい、やまめ。いwana更に古くはうなぎまで沢山いました。

しかし河川の護岸工事等が行われほとんど見る事ができない状態になってしまいました。また近年では黄砂に混じってPM2.5の飛来等により山々の木々や草花等が絶滅し、土中にそれらが混入し地下水まで汚染しはじめています。この様な汚染によって生物全体が危うくなりつつあります。この様な状況は年々進むだけで改善がなかなか難しいですが、一人ひとりが自覚し、あきらめず活動して行く事が、この問題の解決につながる道だと思います。

（桐生・みどり地区 鈴木 久）



夏本番!!

…片亀先生に、夏を乗り切るアドバイスを頂きました…

「我慢しない夏の節電・省エネ」

夏に向けて、無理なく継続できる節電・省エネのポイントを紹介します。

1. 日中は風を入れない

意外に思われるかもしれませんが、真夏の日中は窓を閉めて外気を遮断した方がむしろ涼しさを保てます。昨年8月10日のわが家の実測値では、窓を閉めて、朝から全くエアコンを使わない状態で午後2時に外気温 39.2℃、1階リビングの室温 31.8℃でした。つまり、風を入れない状態で室内の方が 7.4℃低かったのです。猛暑日には窓を開けても熱風が入ってくるだけで少しも涼しくなりません。

2. 遮光・遮熱が重要

ただし、上の話には前提条件があります。「遮光・遮熱」をしっかりとすることです。窓から直射日光がガンガン入ってくる状態で窓を閉め切ったらそれこそ「温室状態」で最悪です。東西の窓はすだれ、よしず、グリーンカーテン、シェードなどによって窓の外側で遮光しましょう。雨戸やシャッターがあれば東側は午前中、西側は午後閉めておきます。南側は軒やひさしが窓の高さの3分の1程度せり出していれば真南からの直射日光は入りません。でも、正午前後の時間帯には南東や南西の方向から日が差し込みますので、「袖壁」のように南窓の両サイドに奥行60センチ程度の日よけを設置すると防ぐことができます。

また、直射日光だけでなく照り返しも結構熱量があります。南側の地面からの照り返しや北側に隣接する壁や塀などからの反射光にも注意が必要です。さらに、窓だけでなく壁面に当たった日光の熱量は時間差で室内に侵入してきます。余裕があれば壁面にもグリーンカーテンなどを設置すれば万全です。

打ち水も効果的ですが、日なたに水をまいてもすぐに蒸発してしまいます。打ち水は日陰又は日没後に行いましょう。

3. ナイトパーズ

わが家は夏の夜、室温より外気温が低くなった時点で窓を開けます。1階の窓は就寝前に閉めますが、翌朝一番で開けます。このように、低い外気と室内の空気を入れ替えることを「ナイトパーズ」と言います。こうすることで、翌日の朝低い室温でスタートすることができるのです。真夏は午前8時頃には外気温の方が高くなりますので、その時点でわが家は窓をすべて閉めています。

窓を適切なタイミングで開閉するためには、室温と外気温を把握することが必要です。室内外2か所の温度を同時に測定できるデジタル温度計が1000円程度で市販されていますので、一家に1台用意して夏に備えましょう。



4. 熱帯夜対策は氷枕で

節電・省エネのために、冷房を我慢して寝苦しい夜を過ごすのは得策ではありません。わが家も熱帯夜には何度かエアコンを使いました。寝るときにはある程度体温が下がらないとなかなか快適な睡眠がとれず、疲労が残ってしまいます。

しかし、昨年夏の経験を振り返ると、必ずしもエアコンで部屋全体を冷やさなくても、氷枕などで首筋を冷やしてやれば眠れたのではないかと思っています。製氷に必要な電力はエアコンに比べればわずかなものなので、今年の夏は氷枕を併用してエアコンの使用を最小限に抑えようと考えています。

5. 風量は「自動」か「強」で

エアコンの冷房は部屋から熱を外に運び出すのが仕事です。これは「温度差」×「風量」であらわされます。設定温度を低くして弱風又は微風で運転するのと、高めの設定温度で強風で運転するのとどちらが節電になるかと言えば、後者の方が節電になります。温度差を大きくするにはコンプレッサーの圧縮動力を大きくしなければなりません。風量を大きくするのはファンモーターの回転数を大きくするだけなので、風量を大きくする方が相対的に少ない電力で行えるからです。

寝るときには微風にしないと気になると思いますので、就寝前に一定時間強風でしっかり冷やしておいて、その設定温度のまま微風に切り替えることをお勧めします。

6. 湿度調節も効果的

「26℃・湿度 60%」と「28℃・湿度 40%」はほぼ同じ体感温度となります。つまり、湿度が低ければ体感温度は下がるということです。室内に調湿機能のある木炭などを多めに置くなど、湿度対策にも配慮しましょう。ただし、エアコンの「ドライ運転」は「冷房運転」よりも消費電力が大きくなるので避けましょう。

7. 室外機と冷蔵庫にも目配りを

エアコンフィルターは自動クリーン機能がない場合は期間中ときどき清掃する必要があります。見落としがちなのが「室外機」です。室外機の排気ファンの前に障害物があるとうまく排熱できずに効率が低下します。また、直射日光を受けても冷房効率が下がりますので、室外機への日よけは効果的です。ただし、よしずなどを室外機前面に立てかけるのは排気を妨げるので逆効果ですので、排気を妨げない方法で日よけしましょう。

エアコンばかりに目が向きますが、実は冷蔵庫の消費電力が年間では最も多いとされています。特に夏場は過酷な条件になりますので、左右の放熱板をふさがないことや、冷蔵室を適正在庫に保つこと、頻繁な開閉を避けるために、保冷ポットやクーラーボックスを併用することなど、冷蔵庫の運転条件にも目配りがほしいところです。

節電・省エネのために熱中症になってしまっは元も子もありません。今のうちから軽い有酸素運動や腰湯などで汗をかきやすい体質にしておく「暑熱馴化」を心がけて、無理なくこの夏を乗り切りましょう。

環境カウンセラー、群馬県地球温暖化防止活動推進センター 副センター長 片亀 光

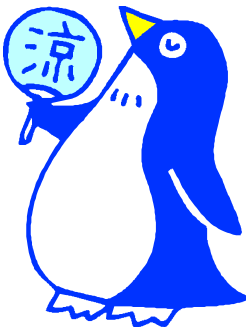
私の一言、投稿欄 「夏の節電・省エネ」

普段から行っている事や、気がついた事の投稿をお待ちしています。

前橋市在住 環境アドバイザー

省エネ：

- ・窓の外にすだれを付けると、クーラーの使用がぐんと減りました。
- ・窓の外に扇風機を置いて、室内に風を送ると涼しくなります。
- ・夜は片付いていないことがあっても早めに消灯し、早起きして家事をします。明るくて涼しいので、省エネです。



高崎市在住 環境アドバイザー

- ・雨水を溜める雨音くんミニ800を有効活用しています。テラスの植木の水やりは勿論、真夏の灼熱の後、夕方の打ち水は、この雨水を利用しています。群馬県は夕立が多いので使えます
- ・東に向いている窓には、オーニングを設置しています。直射日光だけでなく、照り返しによる温度上昇を防ぎます。
- ・南向きの寝室の大窓には、遮光率最高のカーテンを設置。日中の日射による部屋内の温度上昇を抑えています。この部屋には天井には、シーリングファンを付けていて、冷房を使わずにファンや扇風機でかなりしのげます。
- ・熱帯夜には、寝る前、空気の入る外窓の下には雨水を撒きます。気化熱を利用して涼をとります。案外良いです。

渋川市在住 環境アドバイザー

- ・ブドウのツルを窓の方まで伸ばし、グリーンカーテンにしています。

高崎市在住 環境アドバイザー

我が家は天井・壁・床全て木造で吹き抜けとなっているので室内は涼しく夏でもエアコンをつけるのは数日間のみです。

数年前に屋根瓦を葺替え風が抜けるようにしたのも有効で屋根裏温度が夏で4度位下がりました。暑さを凌ぐ工夫としてはグリーンカーテン（時期をずらしキュウリ・ヘチマ・山芋・ゴーヤ・ハヤトウリ等食べられる物を植えて財布の省エネも、夕方水やりを兼ねて葉に水をかけると風が涼しくなります。

夜間は窓を開け、寝苦しい時は寝入りばなの数時間だけ扇風機をつけます。

庭にカヤ替りのテントを張って寝た事もありますがあまりオススメできません。

水枕、氷枕（保冷剤利用）は有効ですね。